

学校法人内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 276 号
(9 月)
2025

命を守る防災意識

学校法人内丸学園 理事長 坂本 洋

九月一日は、防災の日と定められ含む一週間は防災週間です。自然災害で甚大な被害をいかに防ぐか、当園では子どもと一緒に防災を考え、適切な行動や避難の方法を身につけさせ、事故防災意識を高める機会としております。

本年もご家庭保護者の全面的ご協力を得て、盛岡市の防災シェイクアウト訓練と合わせ実施いたしました。当園でのこの日の重点訓練では、①園児の保護者への引き渡し訓練の具体的な実際、②園児への備蓄食品を試食すること（缶入りソフトパン エッグフリーブレイン）、③午後から全職員で防災備蓄用品の確認と用具の使用訓練を実施いたしました。防災用具の

使用訓練では、日頃使用されていないものをスムーズに使えること、いろいろな反省点が出てきました。

さて幼い尊い命を預かる施設では、日ごろの防災教育を意識して保育活動に当たります。遊びを取り入れながら「安全・安心への備え、第一歩」を身に着けることが最優先されます。例えば、地震時のテーブルや机の下に潜り込む「アリさんポーズ」、火災発生時のハンカチで口を覆う、身をかため姿勢を低くし歩く動作、災害時の避難行動「押さない」「駆け出さない」「しゃべらない」「もどらない」の「おかしも」原則等を遊び活動を通して身に着けさせるよう確認しております。

また自然災害はいつ発生するか

分かりません。災害時を想定して避難訓練を定期的に実施しております。しかも発生する災害の種類により避難の内容や方法が異なり注意が必要です。火災、地震・津波、風水害、そして最近では集団感染症や大阪で起きた小学校児童無差別殺傷等まで含めた対応が指摘されております。

従って、教職員は①防災の必要性の認識、②被害発生 of 予想認識、③必要な事前対策と防災計画、④初動対応体制と避難行動の明確化、を共有しそれを念頭に防災避難計画を策定し訓練を実施することが肝要とされます。

忘れもしない十四年前の東日本大震災で「釜石の奇跡」と言われる事例があります。釜石市の中学校と隣接する小学校児童生徒（約五百七十名）が、想定をはるかに超える津波から全員無事に避難。

長年にわたる防災教育で学んだ「津波でんでんこ」避難訓練が功を奏したといわれました。一方、同時に起こった津波被害の宮城県の大川小学校の悲劇、全児童一〇

八名のうち津波発生時七十八名中七十四名と教職員十名、計八十四名が死亡行方不明の犠牲。その事例の違いは何か検証されております。

前述した教職員の計画訓練作成のための必要性の意識化、認識の共有が最も重要とされ、初動対応体制と避難行動の明確化が重視されました。日頃の訓練も子ども達と共に常に真剣に取り組む、そして自分で判断・行動できる力を育む必要性が強調されております。

なお九月には、運動会行事も予定され各学年クラスそれぞれの演目を自主的に話し合い、運動を通して基礎体力としてのリズム感や筋力、俊敏性や平衡感覚を養う機会としており、お友達と協力して最後まであきらめず頑張る力を体験しております。今後とも保護者皆様のご支援を切に願っております。



②地震時避難訓練 (シェイクアウト) 11 時 45 分

今回は【安全行動 123】の浸透に重きを置いて実施しました。事前にピクトグラムで視覚的に伝え、やってみることで、特に以上児では自衛意識を養う一端となったのではないかと思います。未満児では、まずは保育教諭のそばに集まる(集める)ことを第一とします。驚いて泣く姿は、平常と違う状況を察知している証拠であると言えます。それらを予見した上で、保育教諭がどう動くかが要となります。子どもの自衛行動はまだまだ難しいと感じられるかと思いますが、(安全)教育としての側面では、発達にに応じ、その子なりの「できること」を捉えて増やしていく視点が肝要です。いずれにしても園での避難には、日々の関わりより築かれる保育教諭との信頼、安心感の保持が礎になることを再認識しました。



引き渡し訓練待機中



放送に使用した音源

発電機の作動確認

9月1日 当日の 取り組み

①防災食の試食体験 午前 11 時頃

今年試食したのは「エッグフリー (ブレーン)」という缶詰のパンです。乳・卵不使用で、在籍児全員が同じものを試食しました。昨年度までには、お湯や水を用いるアルファ化米、カンパン等の試食はありましたが、この商品は今回が初めてです。5 年保存可能、プルタブ開封、1 缶 100 g。未満児は 17 g、以上児は 50 g ずつ提供しました。抵抗なく「おいしい♪」と非日常的な経験を少し楽しむように食べ進める子どもいました。各クラス数名ずつは、独特の匂いや食感の違いに抵抗を示し残す子どもいました。2 歳児以上では、パンの説明、食す場面の背景等も子どもたちに伝えていきます。パンを分ける様子を目前で見せる、電気を消して試食する等、学年毎の工夫もありました。年長児担任は、「分け合うことの大切さ」を体感している子どもいたと話しています。備蓄する防災食の選択と、食べるものに制限がもたらされた時の食への対応力の大切さを実感しました。



引き渡し訓練



安全行動 123 を体験



試食した缶詰



【安全行動 123】ピクトグラム

③緊急時園児引き渡し訓練 11 時 50 分頃

地震時避難訓練の流れから、降園準備をして待機するよう放送し、おがスマで訓練開始のお知らせを配信しました。全園児一斉引き渡し訓練は今年度が初めてでしたので、職員も予想できない部分があり、より緊張感のある訓練となりました。実際にやってみると、引き渡しカードの形式や取り扱いについて、受付場所の選択、早さより確実性を重視する意識の共有、連絡手段の確実性向上、暑い中での防災頭巾着用の是非など、多くの課題が見えてきました。事前に確認して取り組んだ中でも、大勢の職員が関わると少しずつ個人の理解にずれが生じていることも露わになったと思います。それらを振り返りの中で職員自身が感じたということと自体が大変大きな成果と捉え、再度検討を重ねる共有する作業を進めていくところです。また、「休みの職員がいたら?」「冬だったら?」「園庭での引き渡しだったら?」と、今回の経験を踏まえた上で、違う状況だった場合ではどうすべきか?と思考を広げ、検討する契機にもなっています。

④防災用品研修 13 時 15 分

園にはたくさんの方の防災用品の備蓄があります。発電機やポータブル電源、照明、担架、トイレ、テント等の大きなものから、保温シート、衛生用品、電池等の細かいものまで多岐に渡ります。しかし、そのほとんどが普段は備蓄庫等に収納され表に出ることはありません。今回は、全職員が備蓄品リストを手元に園内を巡りながら、場所、使用方法、作動状況の確認をしました。実際に使用してみると扱いが難しいものもあり、特に発電機はエンジンがかかることに苦戦する職員も多く、日頃からのメンテナンスや使用方法の把握の重要性が見えてきました。また、備蓄場所の再検討、分かりやすい表示等、いつでも誰でも使える備蓄の大切さを痛感しました。

九月一日、「防災の日」として園でも様々な訓練を実施しました。3・11 の教訓や昨今の社会情勢、自然災害の発生状況等から、日常からの備えを重要視し、注力した活動は広く深いものになってきていると感じます。

当園では、毎年作成する年間計画に基づき「地震」「火災」「水害」「不審者」等、様々な想定のもと、毎月避難訓練を実施しています。認定こども園は、「教育」と「保育」の両面を担う施設ですので、避難訓練は単なる「安全対策」に留まらず、子どもの成長を支える教育活動の一つと捉えています。具体的な内容としては、

- 命を守る行動力の育成
- ・災害時どう動くかを体験的に学び命を守る力をつける
- ・「おかしも」等、基本ルールの習得
- 幼児期からの防災意識の形成
- ・防災の大切さを知り、将来に渡る高い安全意識を育てる
- ・絵本や遊びを通じ、怖がらずに防災について学ぶ

- 職員の対応力向上
- ・役割分担や避難誘導の手順を確認し、緊急時の混乱を防ぐ
- ・園全体の危機管理体制の強化
- 保護者との連携強化
- ・家庭での防災意識を高め、園と保護者との連携を深める
- ・災害時の対応を共有する
- 心の安心感の育成
- ・繰り返しの訓練の中で「知っている」「できる」という自信が生まれ、不安を軽減する
- ・保育教諭や友達との避難により協調性、社会性を育てる
- これらの力を園児、職員が共に培う取り組みが不可欠と認識し、学年や発達に合わせて、段階的かつ総合的に力を着けられるよう、ねらいを持って実施しています。
- 殊、防災の日には、普段とは異なる訓練を設けました。



おうちの方からの声

○家にいる時に地震が起きたらどうしようかと子どもと話し合う機会になった。

○災害時の動き方や、園の体制を再確認でき、安心感と防災意識が高まった。

○子どもたちが真剣に取り組んでいる姿に感心した。大人も防災について考える機会になった。

○普段車での送迎が多いので、他の交通手段やかかる時間等を確認しておく必要があると感じた。

○停電により近隣駐車場が使用できなくなることを想定して備えておかなければと思った。

○保護者側からの連絡ツールがあると互換性が高まると思う。

○子どもが避難の仕方を説明しており、経験の効果を感じた。

○家でも防災グッズを用意した方がいいと子どもが話しており、家の対策の見直しにつながった。

○印象深かったようで、家で妹と訓練ごっこをしていた。

○緊急時の迎えについて、日頃から家族間で連携をとれるよう備えておこうと感じた。

避難訓練はいろいろな想定で行いますが、本当に災害が起きた時、訓練の通りになることは当然ありません。日ごろからの訓練に臨場感を持って取り組みながら、対策は常に途上であるという事実を意識することが大切だと認識します。そのことが、丁寧な振り返りを繰り返しながら、訓練の質を高めていくための重大な条件であると感じています。

また今回は、職員だけでなく保護者の方からもたくさんのご意見を頂くことができました。違う角度からの声は大変貴重で、今後の取り組みを更に充実させるヒントがたくさんありました。

最後になりましたが、この取り組みにご理解を頂き、真摯に協力してくださった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



4歳児Bクラス

来年はいよいよAクラス！憧れの競技に期待を膨らませています。

緊張しながらも、お家の人近くで応援してもらえたことで、笑顔になったり、張り切る姿も見ることができました。個々のいろんな姿に一年間の成長を感じることができ、とても嬉しく思いました。

当日、かけっこではゴールまで自分で走り切り、親子競技では、大好きな虫をテーマに親子で力を合わせて虫捕り。ダンスでは、お面作りや忍術修行をして遊んだアニメ『忍たま乱太郎』の「いまだ!!」を選曲しました。初めて挑戦する隊形移動や掛け声、最後のポーズまでリズムにのって元気に可愛く踊ることができました。

当日、かけっこではゴールまで自分で走り切り、親子競技では、大好きな虫をテーマに親子で力を合わせて虫捕り。ダンスでは、お面作りや忍術修行をして遊んだアニメ『忍たま乱太郎』の「いまだ!!」を選曲しました。初めて挑戦する隊形移動や掛け声、最後のポーズまでリズムにのって元気に可愛く踊ることができました。

みんなよく頑張りました！
Bクラス担任 齋藤由紀乃



いまだ!!

Aクラスになったら「Bクラスさんのプラカードを持ちたい」と言っていました。来年、どんな成長を見せてくれるのか今から楽しみです。

家でも毎日欠かさずダンスの練習をしていたので練習通りいきいき堂々と踊る姿を見て、こちらまで楽しい気分になりました。

父親として、子どもの園での様子を知る少ない機会なのですが毎度、子どもの成長には驚かされます。

～お家の方から～

子どもたちの緊張した姿、かわいらしい姿がぎゅっと詰まった素敵な運動会でした。



笑顔でゴールへ!!

本番当日の朝、いつもと違う場所や人の多さに緊張している様子でしたが運動会中は昨年よりも多くの笑顔が浮かび、楽しみながら参加する姿を見ることができました！運動会という大きな行事を経験し、より一層成長していく子ども達の姿がますます楽しみです。

未満児クラス

5歳児Aクラス

みんな金メダル！
Aクラス 新沼 弥英

九月から本格的に運動会練習が始まり、子ども達はずっと憧れていたマット取り、バレーン、リレーをとっても楽しみにしていました。練習するうちに楽しいだけではなく、難しさや悔しさを感じるようになり、少しずつ「もっと上手になりたい」「勝ちたい」と子ども達の中で声を掛け合い、励まし合い、競い合いながら練習する姿もありました。

当日は緊張や恥ずかしさを感じている子もいましたが、沢山の声援や拍手をいただきながら最後まで頑張ることができました。親子でのデカパン競走。がんばるぞコールで気合を入れ3回戦まで続いたマット取り。みんなで心一つにして演技したバレーン。転んでも最後までバトンを繋いだリレー。各競技はもちろん、一人一役の係も堂々とした姿で今までで一番かっこよかったです！子ども達の頑張りを近くで見ることができ、嬉しく思います。練習から当日の姿まで、また一つ成長を感じた運動会となりました。

開会宣言や体操リーダーをはじめ、リレー、マット取りバレーンなど年長さんの出番も多く練習も大変だったと思います。本番での堂々とした姿にとっても感動しました。



年長伝統 マット取り

～お家の方から～

初めてAクラスのバレーンを見て、こんな難しいこと出来るようになるの!?と思っていたが6歳になり次々と技を見せてくれる娘と、同級生を見て改めて幼稚園生活での成長を感じ、感動した。

25

運動会 集

恥ずかしがり屋で、なかなか人前では緊張して動けなかった子が、一生懸命頑張る姿を見ることができて嬉しかったです。

～お家の方から～

抱っこ抱っここの運動会だった保育園から、一人で園児席から競技参加までできるようになり感激しました。



ゴールを目指して...

一人ひとりが頑張った運動会！
C1クラス担任 齋藤綾

初めて運動会を経験する子も多かったCクラス。園内が少しずつ運動会ムードになっていく中で「運動会ってどんなことをするのか？」と興味が膨らんでいきました。園庭に遊びに行くと、子どもたちから「よいいどんしたい!」という声があがり、みんなで繰り返しかけっこを楽しんできました。徐々に「負けたくない」「一等賞になりたい」という気持ち芽生えている子もいて、張り切って当日を迎えました。

当日はいつもと違う雰囲気不安そうな表情を見せる子もいましたが、戸惑う気持ちを乗り越えて開会式に参加しました。「上手になったところをお家の人に見てもらおうね」と練習してきたダンスは、ポンポンをもつ姿、元気な掛け声がかわいらしく、3歳児らしい姿を見ていただけたのではないかなと思っています。大好きなお家の方と一緒に参加する親子競技は子どもたちの楽しみの一つとなっていました。たまごのペンダントを下げた「ちびっこザウルス」とってもかわいらしかったですね。運動会を経験し、また一つたくましくなった子どもたちの今後の成長が楽しみです。

3歳児Cクラス

園内研修

より良い育ちのために

主幹保育教諭 田口千聖



当園では、保育の質向上をめざし、研修の充実を図っています。外部の研修会では各々が専門性を高め、毎月の園内研修では「育ちの連続性をふまえた指導計画と、遊びが深まる環境構成」というテーマで研修を重ねています。

「指導計画」では、その年齢ならではの姿、段階的な発達を共通理解し、育ちの連続性を考慮しながら計画の見直しを行っています。今年の研修成果は、次年度のクラス懇談会等で「〇歳児の一年間」というポートフォリオにてお伝えしたいと思っています。

また、「環境構成」は保育者の大切な役割の一つであり、安心・安全な環境を整え、子どもが意欲的に関わり体験を積み重ねていけるような場やものを用意することです。これまで夏の遊びの環境について評価・反省したところですが、今後は、子どもがのびのび表現できる教材の研究や、社会性が育まれるこっこ遊びの環境、当園の良さでもある異年齢交流からの育ちについても考えていく



予定です。

他にも、園内研修の取り組みの一つとして、いわて幼児教育センター幼児教育専門員の先生を講師に迎え、未満児の保育を公開し、ご指導いただきました。職員同士でも保育を丁寧に見とり、意見を出し合うことで様々な学びや気づきがありました。幼小の接続についても継続的に取り組んでおり、7月末には近隣3校の小学校の先生方に保育を公開しました。遊びや生活の中で学びを深めている幼児教育の実態を知り、就学につながる力を感じていただく機会となりました。

限られた時間ではありますが、子ども達一人一人のより良い育ちのために、主体的に研修に取り組み、園全体の同僚性を高めていきたいと思っています。



「講師の先生をお招きして」

こどものつばやき
～日常のエピソード～

虫さん病院までよろしくね (3歳児)

園庭で元気がないちょうちょを見つけた子どもたち。心配して見ていると、アリが弱っているちょうちょを運んでいってしまいました。ショッキングな状況に、「どうしよう」と言葉が出てこない担任でしたが・・・

Aちゃん:「アリさん、ちょうちょを病院に運んであげるのかな〜?」

Hくん:「虫さん病院までよろしくね」とアリに声をかけてあげていました。

Aちゃんの発言に救われたと同時に、子どもたちの優しい会話にほっこりしました😊

“さんさいおどり” (3歳児)

さんさい踊りが近づき、お祭りムードの子どもたち。「さんさい踊り行くんだー!」と口々に話をする友達の様子を見て、ちょっぴりおとなしい11ちゃんが・・・

「も“さんさい(3歳)踊り”行くんだー!」と一言。楽しみな気持ちを一生懸命伝えてくれたことに嬉しくなりました。

本当に“さんさい(3歳)踊り”があったらかわいらしいでしょうね♥

お昼寝前、上ぐつと靴下を脱いでいると…靴箱に並べながらT君が一言。

「あ!Tちゃん。靴下ぐちゃぐちゃだよ!(たたんでない!)」

いつも先生に言われるから教えなきゃ!という思いが込められたT君の言葉に、

「いいの!すぐはけるから!」と返したTちゃん。

見てみると、靴下のゴム部分を器用に丸めて足の形通りにセット。理由を聞くと、「地震とか火事とか早く逃げられるから!」

生きていく力!なるほど!…と思いつつ、いつものTちゃんを思うと、

きっと楽しみたいから…とも思ったり…



すぐはけるように… (5歳児)

学校法人 内丸学園
幼保連携型認定こども園

盛岡幼稚園

盛岡市中央通一六四七

TEL 六三二一三〇一

理事長 坂本 洋